



コロナ禍における
現状況下での取組

田中 和美 (公明党)

問 新型コロナウイルス感染拡大による自宅療養者への支援が現在不十分であることから、市民からは不安との声がある。新型コロナウイルスワクチン接種を順調に進めている本市ではあるが、さらなる接種率向上への後押し並びに自宅療養者への支援を考えているか。

答 ワクチン接種の関心を高めるため、毎週接種者数や接種率を公表している。また、市報では本年3月から7カ月連続で特集を組むなど、市報・市ホームページ・市公式LINEを活用しワクチン接種のPRを行っている。このほか、65歳以上の未接種者のうち高齢者世帯への個別訪問や接種勧奨通知の発送、市医師会の協力のもと感染症やワクチンの情報提供・注意喚起のリーフレットを保育園・小中学校などに

も配布している。さらに、保護者と子どもが一緒に接種できる対応や接種時の一時預かり保育事業を実施するとともに、個別接種会場も増やしている。自宅療養者への支援は県が実施するものであるが、現状に即し、申出による日用品などの買い物代行の市独自支援を開始したところである。

問 環境省から災害時ペット同行避難の円滑化を目的に、「ペットの同行避難点検リスト」が配布されていると聞く。各点検項目への対応状況は。

答 要配慮者と補助犬の対応準備がこれからだが、獣医師会やペットホテル事業者と連携していく。

その他の主な質問

○試行的液体ミルク導入後の取組

○期日前投票所での感染対策、投票率向上の取組
○さらなるSDGs推進



通学路の合同点検の実施、コロナ
禍における地域活性化と観光振興

木村 博 (公明党)

問 本年6月、千葉県八街市で下校中の児童を巻き込んだ交通事故が発生した。これを受けて文部科学省から通学路の合同点検を行い、通学路の安全対策を講じるよう通知があった。本市では、どのような体制とスケジュールで対応しているのか。

答 合同点検は、教職員と保護者、スクールガードさらには自治会等の協力を得て進めている。全体スケジュールは、多角的な視点で点検を行い、9月末をめどに対策箇所を抽出し、10月末をめどに対策案を検討、作成していく。

問 安全対策に係る予算措置の考え方は。

答 教育委員会が中心となり建設部や関係部署で協議している。今後5年間の通学路整備計画を策定し、安全対策を実施するための予算措置を行う。

問 子どもの安全が第一であるが、優先的に予算措置できないのか。

答 緊急性の高いものから優先的に行えるよう努めていきたい。

●地域活性化と観光振興

問 住まいから1時間程度で移動できる地域での観光を意味しているマイクローリズムの考え方について、本市の見解は。

答 人の移動が制限されるコロナ禍においても本市の観光振興において同調できる手法であり、おもてなし観光局と連携しながら進めていきたい。

問 新たな観光資源の発掘と地域経済の向上について、本市の見解は。

答 おもてなし観光局が、地域関係者参加のワークショップを開催予定である。また、地域関係者が参加する各種イベントなどで新たな観光資源の発掘につなげていきたい。



小・中学校におけるSDGs(持続
可能な開発目標)の取組について

香川 宏行 (新政策研究会)

問 SDGsは持続可能な世界を実現するための国際的な目標であるが、教育委員会ではこのSDGsをどのように捉えているのか。

答 本市の教育大綱に掲げられた確かな学力と生きる力を育む教育、安全で快適な教育環境の整備、子どもの健全育成と心の教育など、時代の要請や社会の変化を的確に捉え、積極的かつ柔軟な教育を推進しており、これらはSDGsの掲げる誰一人取り残さないという理念と方向性を同じくするものであると認識している。

問 SDGsには、ESD(持続可能な社会の創り手を育む教育)が位置づけられているが、このESDをどのように理解しているのか。

答 これまで本市が進めてきた学力向上や特色ある学校づくりなど、子ども

もたちの能力を最大限に伸ばす細やかな教育は、ESDの理念に通じるものであると考えている。

問 ESDを推進するユネスコスクールなどのモデル校の設置の考えは。

答 今後とも教科学習だけでなく、性の多様性を尊重する人権教育をはじめ、グローバル人材を育成するための国際理解教育、防災教育、環境教育など、SDGsの理念を取り入れた学習を実施するとともに、モデル校の設置などについても、研究していきたい。

問 昨年度、市内全児童生徒に学習用のタブレット端末が整備されたが、その現状と活用状況は。

答 現在、算数・数学、英語の2教科でデジタル教科書を導入し、授業改善に取り組んでおり、また、家庭学習にも活用しているところである。